
スマイル抜きで

いちは

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スマイル抜きで

【Nコード】

N6764I

【作者名】

いちは

【あらすじ】

「スマイル抜きで」と注文されたことから始まった出会いの話。

もう15年くらい前の話。

福岡のマクドナルドでアルバイトをしていた頃のことだ。

「スマイル抜きで」

そう注文されたことがある。

大学入学してすぐの5月。

正式に採用される前の試用期間で接客の練習をやらされたが、
どうにも自然に笑うことができなかった。

ただ、一応の愛想笑いができたことと、人手不足だったこともあったが、

本採用ということになった。

最初はガチガチだった俺も、レジ打ちなどは徐々に慣れていった。
しかし、どうしても笑顔が難しかった。

「君、笑顔は笑顔なんだけどねえ。もう少し自然さが欲しい」
店長からも数回指摘された。

そんなある日のこと。

レジに並んだスーツ姿の若い女性から、

「テリヤキバーガーセット、スマイル抜きで」
という注文を受けた。

「お飲み物は何になさいますか？」

と笑顔で尋ねたら、真顔で、

「スマイル抜きなんですけど」

と言われ、非常に困った。

商品を渡す時も、いつもの癖で笑ってしまった。

「スマイル抜きって言ってるじゃないですか。

すいませんけど、店長呼んできてください」

俺は笑顔が凍りついてしまった。

真顔と笑顔の中間でスタッフルームへ向かい、店長を呼んだ。

「スマイル抜きって頼まれたお客様に笑顔で応対してしまつて……。なんとなく怒らせたみたいで、店長を呼んでと言われました」
机で作業していた店長も表情を固くしてレジに向かった。

レジでは、さっきの女性が待っていた。

その女性を見るなり、店長が、

「えっちゃん、ひさしぶり〜!!」

と言った。

「店長、おひさしぶりです〜」

“えっちゃん”と呼ばれた女性は、満面の笑みでそう答えた。

「新人君みたいだったんで、からかってみました。笑顔も固かったし」

俺はホッとして、体の力が抜けた。

店長が俺を見て笑っていたので、俺もつられて笑った。

「その笑顔だよ、新人君」

“えっちゃん”も笑っていた。

後から知ったのだが、“えっちゃん”はエツコさんで、就職を機にアルバイトを辞めた先輩だった。

エツコさんも入りたての頃は笑顔が固かったらしい。

そんなエツコさんは、店長や古株の先輩たちと仲が良く、

「スマイル抜き」事件の後、バイトの飲み会に何回か参加した。

そうこうするうちに、俺とエツコさんは仲良くなって、友人とも、恋人とも、姉弟とも言えないような関係になった。俺は大学での出来事を相談したり自慢したり、エツコさんは仕事について熱く語ったり愚痴をこぼしたり、週に二回くらい会ってはそういう時間を笑いながら過ごしていた。

その年のクリスマスはエツコさんと過ごしたし、初詣にも二人で行ったけれど、男女の仲にはならなかった。エツコさんは、いつも笑っていた。

二月の最初。

エツコさんが東京に転勤することが決まった。やりたかった仕事に一步近づけるらしい。その日は、二人で笑顔で乾杯した。

バレンタインデーもホワイトデーも一緒に笑って過ごした。そして、三月末、とうとうエツコさんが東京に行く日になった。博多駅、新幹線のホーム。

ホームに来るまではお互いに色々と明るく話していたけれど、新幹線のつるつとした姿を目の前になると、エツコさんが遠くに行くことが実感できた。会えなくなるわけじゃないだろうけれど、会わなくなるだろうという予感を感じた。

新幹線に乗る直前、エツコさんは俺に右手を伸ばした。「握手!!!」

初めて握るエツコさんの手は意外に温かかった。そして、エツコさんは、手に力を込めて言った。「バイバイって言って。スマイル抜きで」初めて見るエツコさんの泣き顔。

スマイル抜きでと注文されたけれど、

俺は自分なりに最高の笑顔を作って答えた。

「バイバイ!!」

新幹線の窓に映る俺の顔は、最低の泣き顔、スマイル抜きだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6764i/>

スマイル抜きで

2011年1月27日05時31分発行